

---

『だから仏教は面白い!』①

---

『だから仏教は面白い!』

魚川祐司著（講談社+α文庫）

《著者プロフィール》

東京大学文学部思想文化学科卒業（西洋哲学専攻）、  
同大学院人文社会系研究科博士課程満期退学（イン  
ド哲学・仏教学専攻）。2009年末からミャンマーに  
渡航し、テラワータを中心とした仏教の行学（実  
践と学問）を学びつつ、仏教・価値・自由などをテ  
ーマとした研究を進める。



《本書を選んだ理由》（まえがきより）

本書では主に「ゴータマ・ブツダの仏教」の根源的な思想構造と、その実践（瞑想）との関連に焦点を絞ってお話をしています。対談講義の形式によって、「仏教という思想・宗教・世界観の仕組み」を、その最も基本的な部分において、読者にはっきりと理解してもらうことが、本書の目的です。

《本書の構成》

- 仏教の基本的な立場と方向性： 1、2章
- 仏教思想の基本的な概念について： 3、4章
- 涅槃（すくい）とは何か： 5、6、7章

《小西のメモ》

-第1回 仏教はヤバいもの

- なぜ仏教は「ヤバい」のか？（p10～p14：5頁）

- 梵天勧請：ブツダは悟った当初、その悟りの内容（=仏教）を説き広めようとは  
考えなかった。どうせ言っても誰もわからないだろうと思ったからだ。

- ポイント：仏教を理解できる人とできない人がいると、ブツダは考えた。そ  
の理由は？

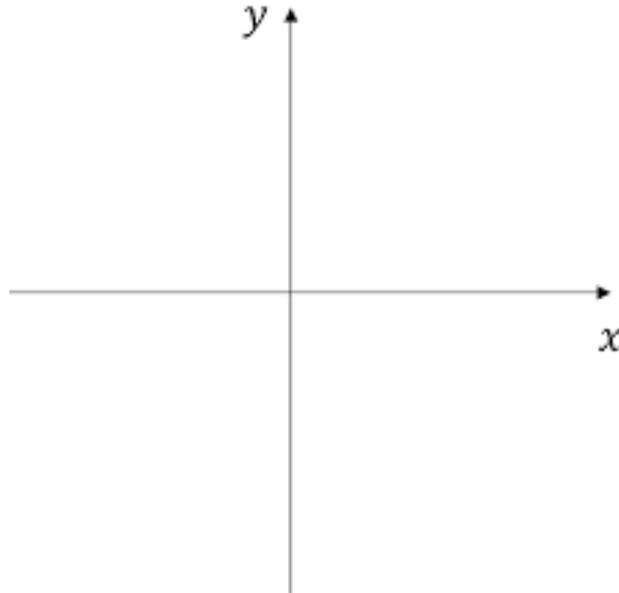
- 異性とは目も合わせないニートになれ！ (p14～p29：16 頁)
  - 最古の経典…『スッタニパータ』『ダンマパダ』などがある。
  - 鉢（はち）…出家者が托鉢の際に使う鉢のこと。
  - 増支部…原初のパーリ語で書かれた経典の一部。
- 世の流れに逆らうもの (p29～p35：7 頁)
  - 「欲望の対象を楽しみ、欲望の対象にふけり、欲望の対象を喜ぶ」とあるが、これはどういうことか？
    - 「ヤバい」とはどういう意味で使われているか。

## - 第2回 仏教の核心

- 「はずだ論」のワナ (p38～p44：7 頁)
  - 仏教の「ヤバさ（非人間的）」に対してとられた2つの態度。
    - 仏教の矮小化：(よかれと思って)都合のいい部分だけ切り取ってごまかす。  
→「はずだ論」
    - 切り捨てる：「ヤバさ」を踏まえた上で、不要なものとして切り捨てる。
- ゴータマ・ブッダのシンプルな教え (p44～p48：5 頁)
  - 傾向性：水は高いところから低いところにながれるように、ある特定の方向へ傾く事。物事の性質や状態または人の行動や考えが特定の方向へ偏る事。癖のようなもの。
- ただ在るだけで fulfilled (p48～p64：17 頁)
  - 「瞑想は bargain ではない」
    - なぜ「取引」として仏行を実践してはならないのか。
      - 有為（サンタカ）：条件づけられていること（一切の現象は、すべて先行する原因によって条件づけられている）
      - 無為（アサンタカ）：条件づけられていないこと
    - 疑問：ここでいう「世界」（p55）とは？
    - 疑問：取引（bargain）と有為（条件づけられた現象）は同じ？
    - ポイント：「手段」と「目的」の思考法
    - 「輪廻転生」の世界観
- 永遠のRPGのレベル上げ (p64～p69：6 頁)
- 「金パン教徒」（p69～p74：6 頁）
  - 人生の基本的な動機と目的

以下、『悟らなくたっていいじゃないか』より（著：魚川祐司など）参照

比喩的に言えば、通常わたしたちが価値を感じているところのものを  $x$  や  $y$  で表すとすると、 $xy$  平面の座標の中だけで生きているのが、私たちが知覚する「現実」だと思っていて、そこで右に行くのか左に行くのか、そのためには「自分」をどうすればよいのか、そういうことを当面の課題として生きている。



わたしが考える仏教の瞑想（行）の機能とは、その  $xy$  平面に  $z$  軸を立てるということなんです。平面上での関係（価値の基準や体系）に完全に巻き込まれて、そこで悩み苦しんでいる人たちに対して、自分の座標から目に入る点同士の関係だけが「すべて」だと認識するのをやめてもらい、それを俯瞰する視点から平等に眺められるように…（以下略）

